

要保管

倒れてもこぼれにくい温度調整電気ケトル 1.0L 保証書

型番	TA-E502
品番	AS-102

保証期間内に取扱説明書、本体表示などの注意書きにしたがって正常な使用状態で使用していて故障した場合には、保証書の記載にもとづき、お買いあげの販売店が無償対応いたします。お買いあげの日から下記の期間内に故障した場合は、商品と本書をお持ちいただき、お買いあげの販売店に交換をご依頼ください。

保証期間	本体お買いあげ日より1年間	お買いあげ日	年 月 日
※お客様	お名前 様	住所	
		TEL	
※販売店	店名(ネットショップ/ギフト会社/販売会社名等) 印	住所	
		TEL	

※印欄に記入のない場合は無効となりますから必ずご確認ください。

- 保証期間内でも次の場合には有料対応となります。
 - お取り扱い上の不注意・天災・火災・公害・異常電圧・指定外の使用電圧による故障、損傷及び部品の当然の消耗などの場合。
 - ご自分で不当な修理・調整・分解・改造などをされたもの及び取扱説明書、本体表示などの禁止事項での使用による故障や損傷。
 - お買い上げ後の輸送、移動、落下などによる故障及び損傷。
 - 本書にお買い上げ年月日、お客様名、販売店の記入の無い場合あるいは字句を書き換えられた場合。
 - 本書のご提示がない場合。
 - 本書は日本国内においてのみ有効です。This warranty is valid only in Japan.
 - 本書は盗難・火災などの不可抗力以外で紛失された場合は、再発行いたしませんので大切に保管してください。
- この保証書は、本書に明示した期間・条件のもとにおいて無償対応をお約束するものです。したがって、この保証書によってお客様の法律上の権利を制限するものではありませんので、保証期間経過後の保守などについてご不明な場合は、お買い上げの販売店へお問い合わせください。

保証書にご記入いただいた個人情報について

- ※ご記入いただいたお客様の個人情報は商品の保守・交換に関わる作業のみ使用させていただきます。
- ※保守・交換以外の業務や第三者に提供することはありません。

	実施日	処置内容	担当者
サービスメモ			

□この度はお買い求め頂き誠にありがとうございます。この製品は、厳密な検査をいたしております。ご使用前に破損などがなければ確認し、取扱説明書をよく読んでから、正しくお使いください。お読みになった後は使用者がいつでも見られるところに必ず保管してください。

■輸入発売元

Tamahashi co.,Ltd.
株式会社 タマハシ

〒959-1241 新潟県燕市小高4549-6
URL https://www.smile-king.co.jp
E-mail tamahashi@smile-king.co.jp

[中国製]

倒れてもこぼれにくい温度調整 電気ケトル 1.0L

※一般家庭用(業務用として使用しないでください。)

この商品は家庭で使うためのものです。使用の際には取扱説明書をよく読んでから使用してください。不適切な取り扱いは事故につながります。この取扱説明書は必ず保管してください。

取扱説明書

保証書付 裏表紙にあります

型番/品番
TA-E502 / AS-102



※この図はイメージです。

※この商品は水を沸かすためのものであり、水以外は沸かさないでください。

※この商品は火にかけられません。直火(ガス台等)や電気ヒーター、電磁調理プレートなどの上に乗せることはできません。

※この商品は保温機能がありませんので、必要に応じて必要な量だけ沸かしてください。

本製品は日本国内専用に設計されていますので、国外での使用はできません。

FOR USE IN JAPAN ONLY

もくじ

安全上のご注意	1~3
ご使用前に	4
各部の名称	5~6
各種飲み物の適正温度について	6
ご使用方法	7~10
●100℃のお湯を沸かす	
●設定した温度でお湯を沸かす	
●お湯を沸かした後、保温する	
●使用後	
お手入れ方法	11~12
おかしいな?と思ったら	13
保証とアフターサービス	14
保証書	裏表紙



仕様	
品名	倒れてもこぼれにくい温度調整電気ケトル 1.0L
型番	TA-E502
電源	100V 50/60Hz 共用
消費電力	900W
最大容量	1.0L
寸法	(約) 220×200×高さ 220mm (電源スタンドセット時)
電源コードの長さ	(約) 1.2m

安全上のご注意












- ご使用前にこの「安全上の注意」をよくお読みになり、正しくお使いください。
- ここに示した注意事項は、製品を正しくお使いいただき、お使いになる人や他の人への危険や損害を防止するためのものです。また、危害や損害の大きさと切迫の程度を示すために、誤った取扱いをすると生じることが想定される内容を「警告」「注意」に区分しています。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。

 警告	この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。	 注意	この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害の発生する可能性が想定される」内容です。
--	--------------------------------------	---	--

※物的損害とは、家屋・家財・家畜・ペットにかかわる拡大損害を示します。

	禁止図記号		指示図記号
	この絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。		この絵表示は、必ず実行していただく「指示」内容です。

警告

	修理技術者以外の方は、絶対に分解したり修理・改造は行わないこと。 ※発火したり、異常動作してケガをすることがあります。		交流 100V で、定格 15A 以上のコンセントを単独で使う。 ※交流100V以外で使ったり、コンセントを他の器具と同時に使ったり、延長コードを使うと、火災や感電の原因になります。
	子供や取扱いに不慣れな方だけで使わせたり、幼児の手が届くところで使わない。 ※やけど・感電・けがをする恐れがあります。安全責任者の監視または指示がない限り補助を必要とする人(子供を含む)が単独で用いることを意図していません。		傾けたり、ゆすったりしない。 ※湯が流れ出てやけどをする恐れがあります。
	使用中、ふきんなどで注ぎ口をふさがない。 ※湯がふきこぼれてやけどをする恐れがあります。		注ぎ口に手をかざしたり、蒸気に触れたり、顔を近づけない。 ※やけどをする恐れがあります。特に幼児には触れさせないでください。
	本体を転倒させない。 ※湯が流れ出てやけどをする恐れがあります。		フタは勢いよく閉めない。 ※湯がふきこぼれてやけどをする恐れがあります。
	最大目盛以上の水を入れない。 ※水を入れすぎた場合、熱湯が飛び出すことがあり、やけど・感電・ケガをする恐れがあります。		本体接続部や感電スタンドは液体に浸けたり、水に濡らしたりしない。 ※ショート・感電の原因になります。
	製品が入っていた袋はお子様がかぶって遊ばないように、手の届かない場所に保管または破棄する。 ※窒息の危険があります。		

保障とアフターサービス (必ずお読みください)

ご不明な点に関するご相談は

□保守に関するご相談ならびにお取扱い・お手入れに関するご不明な点は販売店または下記お問い合わせ先へご相談ください。

ご転居あるいはご贈答品などで保証書に記入してあるお買い上げの販売店に依頼できない場合

■お問い合わせ先

お問い合わせフォーム

Tamahashi co.,Ltd.
株式会社 タマハシ
〒959-1241 新潟県燕市小高4549-6
URL <https://www.smile-king.co.jp>
E-mail tamahashi@smile-king.co.jp



保証書 (一体)

- 保証書は、この取扱説明書の裏表紙に記載されています。
- 保証書は、必ず「お買い上げ日・販売店名」などの記入をお確かめのうえ、販売店から受取っていただき、内容をよくお読みの後、大切に保管してください。

—保証期間—
お買い上げ日より 1年間

保守を依頼される時は

- 保証期間中
製品に保証書を添えてお買い上げの販売店にご持参ください。保証書/取扱説明書の記載内容により交換いたします。
- 保証期間が過ぎている時は
お買い上げの販売店にご相談ください。お客様のご要望により有料で交換させていただきます。


本文中の絵表示は製品のイメージで、実際の形状と一部異なる場合があります。

おかしいな？と思ったら




使用中に異常が生じた場合は本書をよくお読みのうえ、以下の点を確認してください。

こんな時は？	調べるところ	処 置
お湯が沸かない。	電源スタンドの電源プラグがはずれいていませんか。	コンセントにきちんと差し込んでください。
作動しない。沸騰する前にスイッチが切れてしまう。	min (0.3L)に満たない水量で湯を沸かしていませんか。 また、水が入っていない状態でスイッチを入れたりしていませんか。 空だきすると、安全装置が作動して、スイッチが入りません。	ケトルをよく冷ました後、水を入れて、電源スイッチを押してください。
湯に白い物が浮く、容器内が汚れていたり、壁面がはがれたように見える。	ミネラルなど水道水の成分が固着しはがれたものです。 ミネラル分が多い水やアルカリイオン水を加熱すると、ミネラル分が結晶となり白く見えることがあります が有毒ではありません。	クエン酸洗浄によるお手入れをしてください。 (12 ページ参照)
湯沸かし時の音が大きくなる。	ケトル内部底面に水アカが付着したためです。	ケトル内部をお手入れしてください。(11~12 ページ参照)
電源スイッチが入らない	ケトルと電源スタンドの端子接触部が正しく接触していますか。 連続使用していませんか。	ケトルと電源スタンドを正しくセットする。 (7 ページの 3 を参照) 5分以上間をあけてから再度電源スイッチをいれてください。
電源スイッチが切れない	フタは閉まっていますか？フタがしっかり閉まっていないと沸騰してもスイッチが切れません。	フタをしっかりと閉めてください。







上表にしたがって調べたとしても原因がわからないときや、その他の異常や故障があるときは、お買いあげの販売店に修理をご依頼ください。

長年ご使用の電気ケトルの点検を！	
 愛情点検	「おかしいな？と思ったら」の表を参考に処置した後、なお異常がある場合はただちに使用を中止してください。
	故障や事故防止のため、必ず点検・修理を販売店にご相談ください。

警告

 フタを確実に閉める。 ※フタが閉まっていないと、沸騰しても電源が切れません。やけどや故障の原因になります。	 湯沸し中はフタを開けたり、給水したり、湯を注がない。 ※湯が飛び散り、やけどをする原因になります。
 使用中・使用後しばらくは高温部に触れない。 ※やけどの原因になります。湯を沸したときは、本体表面が高温 (約 80℃) になっています。	 電源スタンドのジャックに金属ピンやゴミを付着させない。 ※感電やショートによる火災や接触不良による故障の原因になります。
 直火 (ガスコンロなど) や電気ヒーターなどの上にのせない。 ※火災の原因になります。	 電源プラグにほこりや汚れが付着している場合はよくふき取る。 ※火災の原因になります。
 電源プラグは、コンセントの奥までしっかり差込む。 ※感電・ショート・発煙・発火の原因になります。	 濡れた手で電源プラグを抜き差ししない。 ※やけどをする恐れがあります。特に幼児には触れさせないでください。
 痛んだ電源コードや電源プラグ、差込みがゆるいコンセントは使用しない。 ※感電・ショート発火の原因になります。	 電源コードに重いものを載せたり、挟み込んだりしない。 ※コードが破損し、感電や火災の原因になります。
 電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり束ねたりしない。 ※コードが破損し、感電や火災の原因になります。	 異常が生じた場合は、電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜く。 ※感電、発火の恐れがあります。

注意

 使用時以外は、電源プラグをコンセントから抜く。 ※ケガややけど、絶縁劣化による感電・漏電火災の原因になります。	 電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに必ず電源プラグを持って引き抜く。 ※感電やショートして発火することがあります。
 不安定な場所や熱に弱い敷き物の上で使わない。 ※畳、じゅうたん、テーブルクロスなど熱に弱いものの上で使用しないでください。火災や敷物の変色・変形の原因になります。	 壁や家具の近く、カーテンなどの可燃物の近くで使用しない。 ※蒸気や熱で壁や家具を傷め、変色・変形・火災の原因になります。
 電源コードが破損した場合、応急処置を施したり、修理・交換は行わない。 ●個人の判断で処置せず、お買い求めいただいた販売店へご相談ください。	 本品は玩具ではありません。 ●子供が遊ばないように注意してください。特に小さなお子様は本品に近づかせないでください。

⚠️ 注意

<p> ガスコンロやストーブなどの熱源の側で使わない。 ※熱により本体が損傷する原因になります。</p>	<p> 水に濡れた場所で使わない。 ※感電の原因になります。</p>
<p> 電源スタンドは専用です。他のものは使わない。また、電源スタンドを他の機器に使わない。 ※発火・故障などの原因になります。</p>	<p> 本体は電源スタンドの中央に確実にのせる。 ※転倒によるやけどや、接触不良による故障の原因になります。</p>
<p> 空だきをしない。 ※本体に水が入っていないときは通電させないでください。故障の原因になります。</p>	<p> フタを開けたとき蒸気に触れない。 ※やけどの原因になります。</p>
<p> 本体に水を入れたまま放置しない。残り湯は捨てる。 ※故障や変色・異臭の原因になります。</p>	<p> 本体に氷を入れて保冷用として使わない。 ※結露による感電の恐れがあります。</p>
<p> 牛乳や酒、コーヒー、お茶など水以外のものを入れない。 ※沸きすぎによるやけどや、焦げつき、腐食の原因になります。</p>	<p> 本体を持ち運ぶときは、フタを閉めハンドルを持つ。 ※落下や湯がこぼれて、ケガややけどの原因になります。</p>
<p> 業務用として使わない。 ※本品は一般家庭用です。不特定多数が使う場所に置かないでください。連続過負荷による故障の恐れがあります。</p>	<p> 落したり、ぶついたり、強い衝撃を与えない。 ※破損して感電やケガ、やけどの原因になります。</p>
<p> お手入れは冷めてから行う。 ※高温部に触れ、やけどをする恐れがあります。</p>	<p> 丸洗いしたり、接続部に水を入れたりしない。 ※漏電による感電や故障の原因になります。</p>
<p> 本体内部は洗剤を使って洗わない。 ※異臭の原因になります。</p>	<p> 食器洗い乾燥機や食器乾燥機で洗わない。乾燥させない。 ※故障の原因になります。</p>
<p> ミネラルウォーターやアルカリイオン水を使用した場合は、よりこまめにお手入れする。 ※本体内部にミネラル分などが付着しやすくなり、メッシュフィルターが詰まるなど故障の原因になります。</p>	<p> 使用後しばらくはヒーター及び本体プラグに触れない。 ※ヒーター、プラグは高温になっています。触れるとやけどの原因になります。</p>
<p> 電源を入切するための部品（外部タイマー）やその他の製品、部品、遠隔操作システムなどを組み合わせて使用しない。 改造禁止</p>	

こんなときは

- 沸かしたお湯に白やキラキラした浮遊物がある。
- 赤サビ状の斑点（もらいサビ）がついた。
- 乳白色、黒点、虹色などに変色した。
- ザラザラしている。

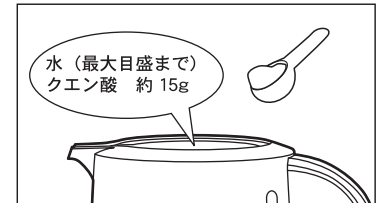
アルカリイオン水やミネラルウォーターのご使用や水道水の水质によって、ご使用にともない本体内部に水アカが付着します。これはミネラル分などの作用によるもので衛生上問題ありません。汚れがひどくなったらクエン酸洗浄をしてください。アルカリイオン水やミネラルウォーターをご使用の場合は特に汚れやすくなります。定期的にクエン酸洗浄でお手入れすることをおすすめいたします。

※使い初めの本体のにおいが気になる時も、クエン酸洗浄で改善する場合があります。

< クエン酸洗浄 >

1. ケトル本体にクエン酸を入れます

- クエン酸を約 15g 加えます。



2. 【沸騰モード】の手順 1~4 まで行う。（P7~P8）

- 水は最大目盛りまで入れてください。
- 水を入れた後、かき混ぜてください。

3. 沸騰したら、約 1 時間放置します

- 沸騰すると「ピッピッピッピ」と音が鳴り、電源/スタートボタンが白く光り、【沸騰モード】が終了します。
- その後、約 1 時間放置してください。
- クエン酸洗浄のお湯を飲まないでください。



4. お湯を捨て、ケトル本体内面を洗う

- 電源スタンドからケトル本体をはずし、お湯を捨ててください。
- その後、ケトル本体内側を水ですすぎます。

5. 水を入れて再度、【沸騰モード】でお湯を沸かす

- クエン酸のにおいを取るために、最大目盛まで水を入れて沸かします。
- 沸いたら、お湯を捨てます。
- その後、ケトル本体内側を水ですすぎます。



- 汚れが落ちにくい場合は繰り返しクエン酸洗浄を行います。

- クエン酸洗浄のお湯は飲まないでください。
- クエン酸は必ず水に加えてください。お湯には入れないでください。
- クエン酸は薬局などでお求めになれます。（クエン酸は食品添加物なので食品衛生上無害です。）
- ケトル本体内部のステンレス部分をお手入れする際は、柔らかいスポンジをお使いください。また、ステンレス部分は強くこすらないでください。表面に傷がつくおそれがあります。

お手入れ方法

- 清潔を保つためこまめにお手入れしてください。
- 長く使用しているとケトル内部に水アカや白い浮遊物などが付着します。
- 汚れが落ちにくいときは、クエン酸洗浄をおすすめします。
- 長時間お使いにならないときは、お手入れ後、十分に自然乾燥させてください。

- 必ず電源プラグをコンセントから抜き本体が冷めてから行なってください。
- 本体の丸洗いは絶対にしないでください。
- 洗剤は使わないでください。
- 金属たわしや磨き粉、ベンジン、シンナーなどは使用しないでください。
- 食器洗い乾燥機や食器乾燥機を使わないでください。

本体内側

- ご使用後は本体内に水道水を入れ、軽くゆすいでから水を捨ててください。
※その際、プラグなど外側に水がかからないよう十分にご注意ください。
- 内部の汚れ（水アカなど）はこまめにお手入れください。汚れをそのままにしておくと、湯沸かし時の音が大きくなったり、湯の出が悪くなります。

- 内側は洗剤を使わないでください。異臭の原因になります。



本体外側・電源スタンド

- 水を含ませ固く絞った柔らかい布などで汚れを拭き取ります。
- 汚れがひどいときは柔らかい布に薄めた食器用洗剤を含ませ固く絞り、汚れを拭き取った後、乾いた布で洗剤分を十分に拭き取ってください。



ケトル外側



電源スタンド

ご使用の前に

- 本製品は水を沸かすためのものです。水以外は沸かさないでください。

- お湯が沸騰するまでは
※お湯が沸騰するまでの時間は、水量、水温、室温などによって多少異なります。

最大容量	時間
1.0L	約8分

- 本体の最小目盛から最大目盛の範囲でお湯を沸かしてください。

※空だき防止機能が働き電源が切れたり、お湯があふれたりして故障ややけどの原因になります。

- お湯を沸かすときは必ずフタを確実に閉めてください。

※フタが開いていると沸騰しても電源が切れません。

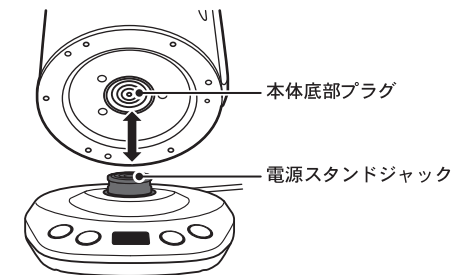
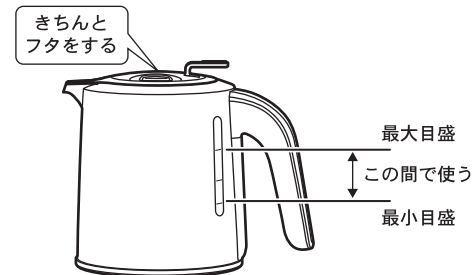
- 本体底部のプラグと電源スタンドのジャックを確実に接触させてください。

※接触が不十分な場合、電源スイッチが入らなかったり、切れなかったりします。

- 長時間清潔にお使いいただくために、定期的にお手入れしてください。

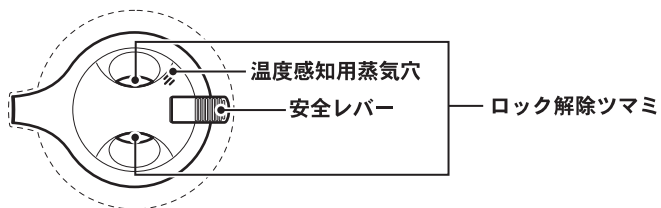
- 長時間お使いにならない場合は、お手入れの後、本体内部に水分が残らないように十分乾燥させてから保管してください。

※においや腐食の原因になります。

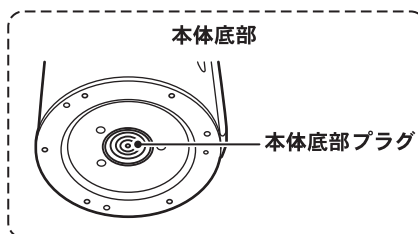
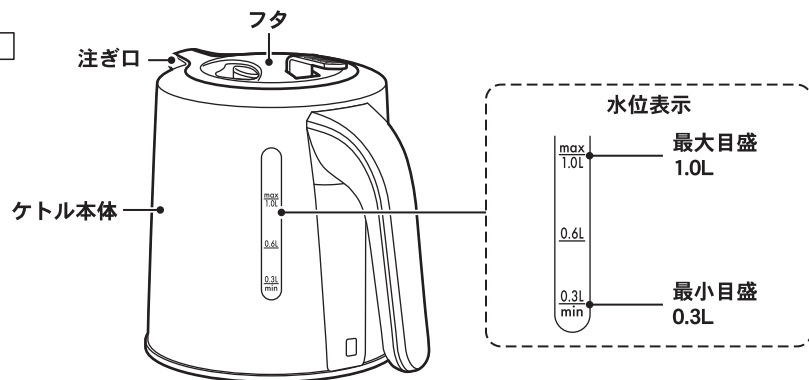


各部の名称

フタ

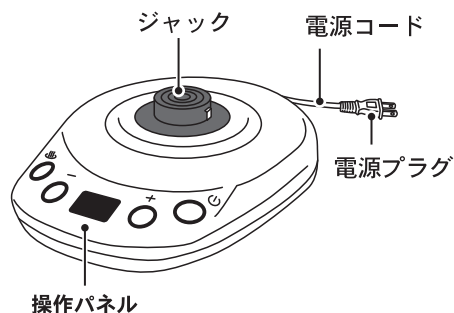


本体



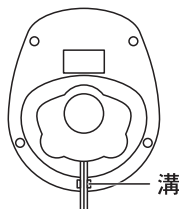
ケトル本体内部は水洗いできます。汚れが落ちにくい場合は、クエン酸洗浄を行なってください。(12 ページ)
※電源接続部などがあるので本体外部は水洗いできません。

電源スタンド



電源スタンド底部

電源コードは、底面に巻き取られています。必要な長さの電源コードを引き出し、溝にはめてください。



お湯を沸かした後、保温する【保温モード】

1. お湯を沸かした後、保温ボタンを押し【保温モード】に切り替える

●保温ボタンを押すと「ピッ」と音が鳴り、保温ボタンが白く光り、【保温モード】に切り替わります。

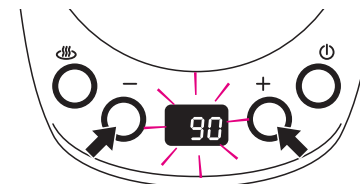


保温ボタンが白く光り【保温モード】に切り替わる

●【沸騰モード】で湯沸かし後、100°Cで保温することはできません。

2. +ボタン・-ボタンで保温したい温度を設定する

●+ボタンまたは-ボタンを押すと「ピッ」と音が鳴り温度表示部が点滅し、保温温度を設定できます。



●【保温モード】は 90°C~40°Cの間の温度で保温できます。

●+ボタンまたは-ボタンを押すごとに、5°Cずつ温度調整ができます。

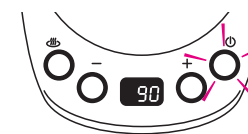
3. 電源/スタートボタンを押して、保温する

●電源/スタートボタンを押すと「ピッ」と音が鳴り、電源/スタートボタンが赤く光り、保温を開始します。

●ケトル内の水温が設定した温度より下がると湯沸かしを開始し、設定した温度に達すると、湯沸かしをやめます。

●保温中は常に設定した温度が温度表示部に表示されます。

●保温は約 30 分間行います。

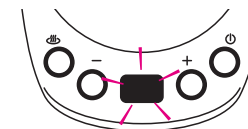


電源/スタートボタンが赤く光り30分間の【保温モード】開始
※押さないとスタートしません

4. 保温終了

●30分経ち保温が終了すると「ピッピッピッ」と音が鳴ります。

●保温終了後 5 分間経過すると電源が切れます。



30分間の保温が終わると5分後に電源が切れる

使用後

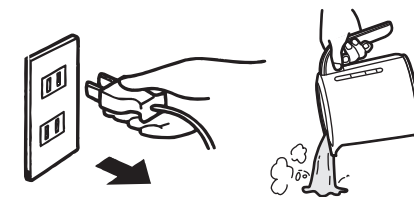
1. 電源プラグをコンセントから抜き、その後ケトル本体の残り湯を捨てます



△注意

●電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに必ず電源プラグを持って引き抜いてください。感電やショートして発火することがあります。

●残り湯は捨ててください。放置すると変色・腐食の原因になります。
●残り湯を流し台に捨てるときはゆっくりと流してください。お湯が跳ね返りやけどをする恐れがあります。

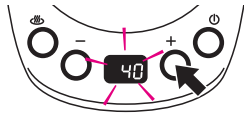


設定した温度でお湯を沸かす【温度設定する場合】

1. 100℃のお湯を沸かす【沸騰モード】の手順 1～3 まで行う。(P7)

2. + ボタンを押して【温度設定モード】に切り替える。

- + ボタンを押すと「ピッ」と音が鳴り、温度表示部に「40」と表示され点滅します。

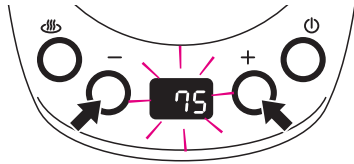


温度表示部に「40」と点滅表示
その後、現在の水温が表示

- 点滅後、温度表示部に現在の水温が表示されます。

3. + ボタンまたは - ボタンを押して、好みの温度に設定する

- + ボタンまたは - ボタンを押すと「ピッ」と音が鳴り温度表示部が点滅し、温度を設定できます。



- + ボタンまたは - ボタンを押すごとに、5℃ずつ温度調整ができます。
- 点滅後、温度表示部に現在の水温が表示されます。
※ケトル内部の水温より低い温度での湯沸かしはできません。

4. 温度を設定後、電源/スタートボタンを押す

- 電源/スタートボタンを押すと赤く光り、「ピッ」と音が鳴り湯沸かしを開始します。

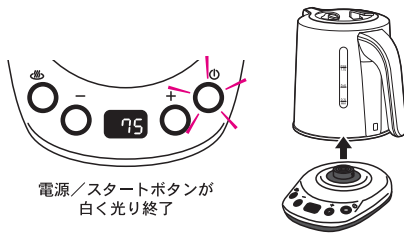


電源/スタートボタンが赤く光り
湯沸かしを開始します。
※押さないとスタートしません。

- 温度表示部に設定した温度が点滅表示され、電源ボタンが赤く光ります。

5. 設定した温度になったら、お湯を注ぐ

- 設定した温度になると「ピッピッピッ」と音が鳴り、電源/スタートボタンが白く光り、加熱を終了します。



電源/スタートボタンが
白く光り終了

スタンドから
持ち上げる

- ケトル本体を電源スタンドから持ち上げます。
- フタが確実に閉まっているか確認します。
- 本体を電源スタンドから持ち上げ、安全レバーを押しながらお湯を注ぎます。

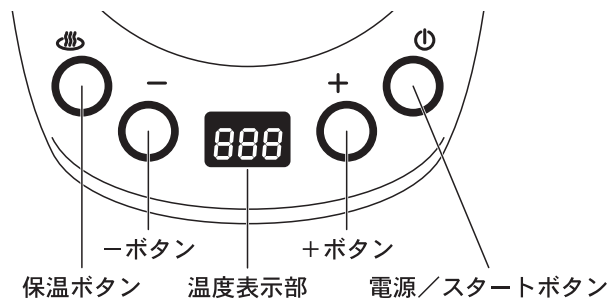
- 湯沸かし後、温度表示部に現在の水温が表示されます。
- ケトル本体を電源スタンドから外すと「ピッ」と音が鳴ります。
- 注ぐ際に傾けすぎると本体とフタの間からお湯がこぼれることがあります。



安全レバーを
押しながら
注ぐ

各部の名称(操作パネル)

操作パネル



電源/スタートボタン	電源を入れるボタン。電源を入れると白く光ります。湯沸かしまたは保温を開始するボタン。湯沸かし中、保温中は赤く光ります。
+ ボタン	このボタンを押すと【温度設定モード】に切り替わります。ボタンを押すごとに「ピッ」と音が鳴り 5℃ずつ温度を上げます。
- ボタン	ボタンを押すごとに「ピッ」と音が鳴り 5℃ずつ温度を下げます。
保温ボタン	お湯を沸かした後に押すと【保温モード】に切り替わります。40℃～90℃の間を設定した温度で 30 分間保温します。
温度表示部	【沸騰モード】にすると「100」と表示されます。【温度設定モード】または【保温モード】に切り替えると設定温度を表示します。本体をセットした後と、お湯を沸かしている間は、現在の水温が表示されます。

電源のオン/オフ

電源オン

- 電源プラグをコンセントに差し込むと自動的に電源が入ります。
- また、電源がオフになっている状態(電源/スタートボタンが光っていない状態)の時に、電源/スタートボタンを押すと電源が入ります。

電源オフ

- 電源がオンの状態(電源/スタートボタンが光っている状態)の時に、電源/スタートボタンを 3 秒以上長押しすると、全ての表示が消灯して電源がオフになります。

各種飲み物の適正温度について

飲み物の種類	適正温度	適正温度で淹れた時の効果
コーヒー	90℃前後	苦味・渋味・甘み・酸味などをバランス良く抽出
紅茶	100℃	渋みと香りを引き出す
玄米茶・ほうじ茶	100℃	さっと出して香りを楽しむ
煎茶	80℃～85℃以下	香りよく、渋み・旨味を楽しめる
玉露	50℃～60℃以下	じっくり時間をかけて旨味を引き出す

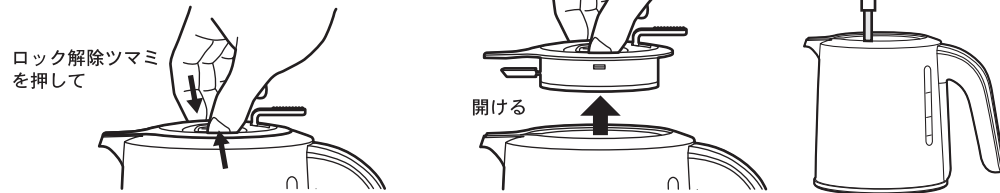
100°Cのお湯を沸かす【沸騰モード】

初めて使うときは

- 本体内部を水またはぬるま湯でよくすすいでください。
- お湯がにおうときがありますが、ご使用とともになくなります。気になるときは2~3回沸騰させた後、お湯を捨ててください。

1. ケトル本体のフタを開け、水を入れてフタを確実に閉める。

①フタを開けて、必要な量の水を入れます。



②フタを確実に閉めます。

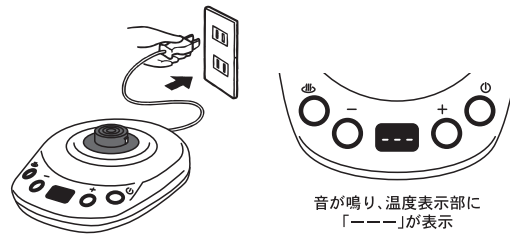


- 最小水位以下(0.3L)の水量で沸かさないでください。空だき防止機能が働いて自動的に電源が切れることがあります。
- ケトル内部に表示されているmax1.0Lより上に水を入れしないでください。
- 電源スタンドに乗せたままケトル本体に水を入れしないでください。
- 本製品は密閉式なので転倒したときに一度にあふれ出ることはありませんが、そのままにしておくと温度感知用蒸気穴から少しずつこぼれてきます。

2. 電源プラグをコンセントに差し込む

●電源プラグをコンセントに差し込むと「ピッピッ」と音がなり、温度表示部に「---」が表示されます。

- 電源は、交流100Vで、定格15A以上のコンセントを単独で使ってください。
- 電源スタンドは水平で安定した場所に置いてください。
- 電源スタンドを安定させるために、電源コードを引き出して電源スタンド底部の溝にはめてください。



3. ケトル本体を電源スタンドにのせる

●ケトル本体を電源スタンドにのせると「ピッ」と音が鳴り、温度表示部に現在の水温が表示されます。

- ケトル本体と電源スタンドが濡れていないことを確認してから、のせてください。
- 本体底部のプラグは必ず真直ぐに電源スタンドのジャックに入れてください。



4. 電源/スタートボタンを押す

- 電源/スタートボタンを押すと「ピッ」と音が鳴り、【沸騰モード】で湯沸かしを開始します。
- 【沸騰モード】になると、電源/スタートボタンが赤く光り、温度表示部に「100」と表示され点滅し沸騰をスタートします。その後、現在の温度が表示されます。



電源/スタートボタンが赤く光り【沸騰モード】で湯沸かし開始

5. 沸騰したら、お湯を注ぐ

- 沸騰すると「ピッピッピッ」と音が鳴り、電源/スタートボタンが白く光り、【沸騰モード】が終了します。
- ケトル本体を電源スタンドから持ち上げます。
- フタが確実に閉まっているか確認します。
- 本体を電源スタンドから持ち上げ、安全レバーを押しながらお湯を注ぎます。
- 【沸騰モード】終了後、温度表示部に現在の水温が表示されます。
- ケトル本体を電源スタンドから外すと「ピッ」と音が鳴ります。
- 沸騰状態がおさまってから注いでください。
- 注ぐ際に傾けすぎると本体とフタの間からお湯がこぼれることがあります。

